



教皇様の叢

Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticanoの転載許可済 © 1996 発行所 財団法人 精道教育促進協会 〒659 兵庫県芦屋市船戸町12-6 TEL.0797-31-3452・FAX.0797-31-3448

平和への希望を新たに

〈クリスマス・真夜中のミサ〉

1 「今日私たちの救い主、主キリストがお生まれになった。」(答唱詩篇)

託身という偉大な秘義が実現する「今日」と言う言葉は、特に、真夜中のミサを祝う今という時を示しています。承伝によれば、神の御子は真夜中のベトレヘムで、この世にお生まれになったということです。

イザヤの預言には、「やみを歩む民は大いなる光を見た」(9・1)とあります。ベトレヘムの羊飼いたちもその中にいました。夜通し群れの番をしていた彼らは、その知らせを最初に受けたのです。「今日、ダビドの町であなたたちのために救い主が生まれたもうた、すなわ

ち主キリストである。」(ルカ2・11)彼らは天使の呼びかけに応え、イエズスの生まれたまやにかけつける最初の人々となりました。

「今日、救い主・主イエズス・キリストがお生まれになった!」この大きな喜びの知らせを受けた全ての被造物は、主に向かって「新しい歌」を歌います。「天は喜び地はおどり、海とそこに満ちるものは鳴り渡り、野とそれに満ちるものは喜びいさみ、森の木々は声をあげんことを。」(詩篇96・95)・11・12)

だからこそ、クリスマスの夜は全世界にあらゆる言語の喜びの歌が響き渡るのです。そこに

込められているのはただ一つの訴えであり、典礼暦年のこの季節に、独特の雰囲気を作りだしています。実に預言者イザヤの言葉どおり、「あなたは深い喜びと大きな楽しみをお与えになった。」(9・2)

2 「今日、キリストが生まれたもうた。」(ルカ2・11) 典礼の中には、「お生まれになった」という言葉と共に「彼が現われた」「啓示された」などの表現が見られます。子供の誕生は、この世への新しい人間の到来です。ベトレヘムでマリアに息子が生まれたことを指して、典礼は使徒パウロのテイトへの手紙で特に強調されている「現われ」について語ります。「全ての人間の救いのもととして神の恩寵は現われた。」(2・11)

「私たちのために一人のみどり子が生まれ、子が与えられた」とイザヤの預言にはありま

す。(9・5) この「子」に神の恩寵が現われ、全ての人のための救いもたらされます。何よりもこの恩寵は神ご自身です。永遠の御父の独り子、いまこの時に人となって、女からお生まれになった方です。ベトレヘムでのご誕生は、キリストにおける神の偉大な啓示の、最初の瞬間となりました。

うまやを訪れた羊飼いたちは、「世の救い主・主キリスト」(ルカ2・11参照)を見出しました。彼らが見たのは布に包まれてまぐさおけに眠るみどり児にすぎませんでしたが、内的な信仰の光のおかげで、預言者たちが告げたメシアを認めることができたのです。人間、

全人類への神の愛が幼子に表わされています。クリスマスの夜に生まれた御方は、「私たちが罪からあがない、善行に熱心な民をご自身のために清めようとして、私たちのためにご自身を与え」(テイト2・14)るためこの世に来られました。

3 「いと高き所には神に栄光、地には善意の人々に

平和。」(ルカ2・14)

教会の伝統的な典礼の中ではおなじみのこの賛歌は、クリスマスの夜、最初に響き渡り、神と人の間の独特で前例を見ない親密さを語っています。実際、神がこれほどまで人間に近づかれたことは、御父の御独り子が人となられたこの夜に至るま



で、ありませんでした。その誕生をめぐる状況はつましく貧しいものでした(イエズスはまるで浮浪者のように、貧しいうまやでお生まれになりました)が、それでも神の栄光に包まれていました。栄光とは単に外的なきらびやかさを指すのではなく、まず何よりも聖性を意味するものだからです。

「私はあなたの変わらぬ愛を歌う。おお主よ、いつまでも。」(答唱詩篇)

それは同時に、地上の平和を宣言します。まず思うのは歴史的な意味での平和です。主の誕生の夜、私たちは全ての人と、バルカン半島、アフリカなど平和を必要とするあらゆる場所で戦火に苦しむ人々に及ぶ、平和への希望を新たにします。でもクリスマスはもつと別の、さらに深い意味を持っています。

それは神と人の間の新しい契約、その更新と最終的な完成です。神の人間との契約が救いの歴史全体に及ぶものであるなら、次のように言い表わす他はないでしょう。すなわち、神は御子という一つの位格のうち人間性を取ることによって、御自ら人間性をお受けになった。こうして神はご自分の中で神のなものと人間的なものを一

つに統合し、とこしえに変わることにない平和と、永遠の契約の基礎を置かれた。だから全教会は今夜、新しい歌を歌い始めるのです。

「あなたはあなたの変わらぬ愛を歌う。おお主よ、いつまでも。」(答唱詩篇)

これは憐れみ深い神の愛を経験した人の、感謝の表現です。それは聖霊に満たされた預言者の言葉、子供を授かろうとすまの婦人の言葉、師に選ばれて使徒となった者の言葉です。それは洗礼を受け、キリストの超越しの秘義によって生まれ変わった人の言葉です。

「あなたたちを受け入れたでしようか。」

「あなたたちも、自分にはできません。」

「あなたたちも、自分にはできません。」

神の 慈しみを たたえる

「私はあなたの変わらぬ愛を歌う。おお主よ、いつまでも。」(答唱詩篇)

「あなたたちを受け入れたでしようか。」

「あなたたちも、自分にはできません。」

「あなたたちも、自分にはできません。」

「あなたたちも、自分にはできません。」

「教皇様の声」では、ご購読くださる方を募集しております。また、お友達・お知り合いの方で本紙をご紹介いただける方があれば、見本紙をその方当てに一部お送りします。

「あなたたちも、自分にはできません。」

「あなたたちも、自分にはできません。」

「あなたたちも、自分にはできません。」

「あなたたちも、自分にはできません。」

「あなたたちも、自分にはできません。」

「あなたたちも、自分にはできません。」

「あなたたちも、自分にはできません。」

●お申込みは、郵便振替、お電話、ファックス、郵便いづれでも結構です。お名前・ご住所・何月号から何部ずつご希望かを明記ください。毎月発行と同時にご注文部数を郵送でお届けします。年間購読料は、送料込込み1部2050円、2部3360円、3部4680円、4部以上は1部1490円×部数、7部以上は1部1440円×部数です。

親愛なる兄弟姉妹の皆さん。

★ 今日、教会は聖家族の祝日を祝います。本日のお礼は、天使が二度にわたってヨゼフに呼びかけた招きに関連しています。「起きて、子供と母親を連れてエジプトに逃げよ。ヘロアが子供を捜し出して殺そうとたくらんでいる。」(マテオ2・13)そしてヘロアが死ぬと、「起きよ。子供と母親を連れてイスラエルの地に帰れ。」(2・19)

この記述から、聖家族に起こった二度の決定的な出来事を知ることができます。一度目はベトレヘムで、ヘロア王が王座を奪われるのではないかと恐れ、御子を殺そうとした時のことです。二度目はエジプトで、危険が去り、一家が流浪を終えてナザレトに帰ることができるようになった時でした。そこにはまず、父としての神の保護、託身した御子への父なる神の心づかいが見取れます。そしてあなたもそれを反映するかのような、ヨゼフの人間的な心づかいも、彼の傍らには黙って心配そうに見守るマリアの姿があります。彼女は神の保護と、ヨゼフのすみやかな応答を心に思いめぐらせていました。私たちは神のこの心づかいを神の摂理と呼びます。一方、人間の心づか

いは「人間の摂理」と呼んでもよさそうです。親となった人々が、どんな種類の悪をも避け、子供たちと家族のために可能なかぎりあらゆる善を求めるように心掛けることができるのも、この「摂理」があるからなのです。

★ 両親の心づかいは、子供たちや家族に真の感謝の



思いを起こさせるはずで、それは当然抱くべき感情です。「父と母を敬え。」私は「家庭への手紙」(15番)の中で、この掟を思い出すよう要請しました。そこで説明したように、この掟は子供たちに向けられたものですが、同時に間接的に、両親にも向けられているのです。掟は子供たちに対し、「敬いな

さい」と命じますが、両親にも「敬われるにふさわしい者になりなさい」と命じています。十戒の第四戒が確立した家庭生活の次元をつねに思い出さなければなりません。家庭は、その本質と召命から見て、生命と愛の環境そのものですが、しばしばあらゆる種類の痛ましい脅威にさらされています。家庭と共に、家庭の中で、個々の人間と社会の生命が危険にさらされています。

兄弟姉妹の皆さん。全キリスト信者と人間家族の

模範であるナザレトの聖家族に目を向けましょう。聖家族は全ての家庭にとつて頼もしい模範となるだけでなく、そのような愛がどんな家庭にも実行可能であると保証することによって、真の愛情と愛徳を輝かせてくれます。結婚する人々が聖霊の励ましを受け、自分たちの家庭共同体を築くことができますように。全ての家庭が信仰を育て、愛と調和と連帯と互いの尊敬に満ち、生命に開かれますように。

家庭の元后、聖マリア。(三) 信じる人々の家庭がさらに忠実に召し出しに応え、「家庭教会」となることができるよう、お助けください。(九五・十二・三二)

〔無原罪の御宿り〕

恩寵に満ちた方

「聖母マリアと教会」シリーズ 7

1 教会は「恩寵に満ちた」方マリアを「全く聖なる者、あらゆる罪の汚れを免れた者」、「受胎の最初の瞬間から全く特別な聖性の輝きをもって飾られ」た方と認めています。(教会憲章56番)

このような認識に至るまでには、教会の教えに関する長期間の考察が必要でしたが、ついに無原罪の御宿りは教義としておごそかに宣言されました。

「恩寵に満ちた御方」というお告げの天使の呼びかけは、ナザレトのうら若き処女に対する神の並外れた好意を示しています。それは彼女がお告げで明かされたように神の御母となったためですが、直接的にはマリアの内に働く神の恩寵を指し示しています。マリアは内側から、また永遠に恩寵に満たされ、聖化されています。ギリシャ語のケカリトメネ(恩寵に満ちた方)という称号には、尽きない意味があります。聖霊は、教会がその理解を深めるよう、つねに助けてきました。

2 聖化の恩寵によって

マリアは新しい被造物となる

前にも言いましたが、天使の挨拶にある「恩寵に満ちた」という表現は、神の御目から見たマリアの名前そのものと言ってもいいでしょう。セム語の用法では、名前はその人の実体とそれが指し示すものを表わします。つまり「恩寵に満ちた方」という称号は、ナザレトの処女の人格の最も深い次元を映しだしています。恩寵によって造られ、神の母になるという特別な恵みを授けられるほどの好意を受けたのです。

公会議は、教会の教父たちがこの真理についてふれ、マリアを「全く聖なる方」と呼んだことを思い起こさせると同時に、神の母が「あたかも聖霊によって造られ、新しい被造物に形成された者」(教会憲章56番)であると確信しています。

個人的な聖性をもたらす「成聖の恩寵」の意味で理解されるこの恩寵は、マリアを新しい被

不変の教え

造物に変え、神の計画に完全に従う者となりました。

3 教えに関する考察は、こうしてマリアの内に完璧な聖性を見出し、しかもそれがマリアの生涯の始めから必然的に存在すると結論しました。

パレスティナのテオテクノス司教は六世紀から七世紀にかけての人ですが、こうした原初的な清らかさに重点を置いていたようです。マリアを「全く清く、聖なる者」と呼んだ彼は、マリアの誕生についてこう語っています。「彼女はケルビムのように生まれた。純粹でまじりけない土から造られた。」

(被昇天祭の説教、556)

最初の人間の創造を思わせるこの表現(罪に汚されていない土から造られた)は、マリアの誕生に人祖と同じ性格を与えています。処女マリアの誕生も「純粹で汚れなく」、全ての罪から免れています。ケルビムとの比較は、マリアの生涯を存在の始めから特徴づけるきわだった聖性を強調するものです。

テオテクノスの主張は、主の御母の秘義についての神学的考察に大きな進歩をもたらしました。ギリシャと東方の神父たちは、すでに託身の前にマリアは恩寵に清められていた(ナジヤンスの聖グレゴリウス、Oratio

800)、あるいは託身の瞬間に清められた(聖エフレムその他)と考えていました。テオテクノスは、マリアは生涯の始めから絶対の清さを有していたと主張したようです。実際、救い主の母となるはずの方なら、完全に聖なる、一点の汚れもない者であつて当然でしょう。

4

八世紀、クレタのアンドレアはマリアの誕生に新しい創造を認めた最初の神学者でした。彼はこのように説明しています。「今日、人類は聖母の無原罪の高貴な輝きに照らされ、昔ながらの美を取り戻した。罪の恥は人間本性の輝きと

「私自身の司祭職を神に感謝すると共に、収穫のための働き人をもっと送ってくださいるよう、祈ります。」

(十一月一日、聖ペトロ大聖堂にて、教皇さまは司祭叙階50周年を記念して、ミサをお捧げになりました。当日は七百名の教区司祭と数千人の信徒が参列し、ミサを祝いました。)

「兄弟姉妹の皆さん、生涯のこのような大きな節目の時に共にお集まりいただき、ありがとうございます。司祭職における兄弟たち、役務としての司祭職という測り知れない賜物を共に主

魅力を奪ってきたが、いと清き御母の誕生によって、この本性は彼女のうちに本来の特権を取り戻し、まこと神にふさわしい完全な模範にかたどって形作られた；われわれの本性は今日から作り直される。そして年老いた世界全体は神のようなものに変化し、第二の創造の最初の実りを受ける。」(説教1、マリアの誕生について)

ここでもう一度、原初の土というイメージに戻り、彼は述べています。「聖母の体は神が耕される土地、キリストによって神化されたアダムの土に実る最初の果実、もともとの美を映す

**教皇さま、
司祭叙階50周年
おめでとうございます。**

イメージ、神である芸術家がこねた土である。」(説教1、マリアの御眠りについて)

マリアの聖性は贖いの始まり
清く汚れないマリアの御宿りは、こうして新しい創造の始まりに見えてきます。それはキリストの御母として選ばれた女性に許された特権であり、彼女は神が全人類のために意図された、あふれるばかりの恩寵の時代の先駆けです。

この教えは、八世紀になって再びコンスタンチノープルの聖ゲルマニウスとダマスコの聖ヨハネによって取り上げられ、世

送ってくださいるように。」

「叙階の秘跡によって、司祭はヘキリストその人として、唯一永遠の新約のいけにえを捧げることができま。ですから私は、一九四六年十一月一日から50年に渡り、一日も欠かさずミサをお捧げられたことを神に感謝します。」

の贖いの始まりとして、マリア本来の聖性の価値に光を投げかけました。

こうして教会の伝統は、天使が祝された処女に呼びかけた称号「恩寵に満ちた方」の真の意味を理解し、明らかにします。マリアは存在の最初の瞬間から「成聖の恩寵」に満たされてきました。エフェソ人への手紙(1・6)によれば、この恩寵はキリストにおいて全ての信者に授けられます。マリア本来の聖性は、この世でのキリストの恩寵の賜物とその分配の、言い尽くせぬモデルだったのです。

(九六・五・十五)

の時、何人かの親族と友人たちが立ち会ってくれました。礼拝堂の床にひれ伏す自分の姿を、深い感慨をもって思い出します。ヴェニ・クレアツール(聖霊賛歌)の歌と諸聖人の連祷が耳にひびきます。私は按手を待っています。私は福音を広め、神の民を導き、神の秘義を祝うための招きに応じました。どれも忘れることのできない思い出であり、今日また、主への言い尽くせない感謝と共に思い返しています。」

(「教皇様の声」編集部は、教皇さまの司祭叙階金祝を心からお祝いします。)

「教皇様の声」ヨハネ・パウロ二世教皇の説教、書簡、講義等を解説なしにそのままとる月刊紙 毎月十日発行 定価 一部百八十円(送料とも) 一年予約 送料とも二〇五〇円から。詳しくは精道教育促進協会まで。

郵便振替 01130-8-72393